

# センター試験にみる心理学

愛知教育大学教育学部准教授  
杉浦淳吉 (すぎうら じゅんきち)

## Profile — 杉浦淳吉

1998年、名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。愛知教育大学教育学部助手、助教授を経て、2007年から現職。2004年12月から2005年9月まで、ドイツ連邦共和国・ルール大学客室研究員。博士（心理学）。専門は社会心理学。主な著書は、『環境配慮の社会心理学』（単著、ナカニシヤ出版）、『クロスロード・ネクスト』（共著、ナカニシヤ出版）、『心理学方法論』（分担執筆、朝倉書店）、『環境行動の社会心理学』（分担執筆、北大路書房）など。



## 高校生が学ぶ心理学

大学入試センター試験に心理学の問題が出ると言われたら、皆さんはどのように思われるだろうか。センター試験が高等学校での学力を測るものだとすれば、高等学校のカリキュラムには心理学が含まれていることになる。ご承知のように現行の高等学校では心理学という科目はないけれども、いくつかの教科の中には心理学が直接対象とする内容も含まれている。

さらには「心理学的」な内容であれば、もっと範囲を広げて考えることができる。たとえば、国語の文学作品の中には心理現象として捉えられることがいくらかでもあるし、数学には心理学でおなじみの平均値や正規分布、統計的検定も扱われる。現実の社会がそうであるように、高等学校で学ばれている個々の事柄は心理学と関係がないわけではない。心理学を直接学んでいなくても、心理学ワールドの読者の皆さんは、高等学校のカリキュラムを心理学が対象とする学習内容や手法の理解の基礎として考えることができるだろう。このことをあえて述べるのは、心理学がさまざまな分野とかわりをもっており、さらに心理学が高等学校の教科として成立していないからといって、その学習内容に無関心でいてはいけないということを自覚しておく必要があると考えるからである。

以上の前提をもとに、本稿では公民科、とりわけ現代社会に絞り、論考していく。高等学校の学習指導要領や検定教科書の内容というより

も、それを準拠して作成されているセンター試験の問題から、心理学がどのように扱われているか、また扱われうるのかを論じていきたい。

## 現代社会にみる心理学

心理学の知識が直接扱われている科目の代表が現代社会といえる。高等学校学習指導要領の公民には、「現代の社会と人間としての在り方生き方」の一部として「現代の社会生活と青年」という項目があり、「大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など現代社会の特質と社会生活の変化について理解させる。また、生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考えさせるとともに、自己実現と職業生活、社会参加に触れながら、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる」とある。その内容は、青年期とその課題、防衛機制や葛藤といったものである。

現代社会では青年期に関しては繰り返し出題されており、「第二の誕生」「心理的離乳」「マージナル=マン」「第二反抗期」「モラトリアム」「アイデンティティの確立」「欲求階層説」といった概念とその提唱者や内容は、受験生にとって必須の知識となっている。防衛機制における「合理化」「抑圧」「反動形成」なども必要な知識となっている。2011年度（本試験）には、「心の揺らぎへの無意識的な対処である防衛機制（防衛反応）に関する記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ」とい

う問題が出ている（正答肢はいいですね）。

- ①現在の行動や思考などから、それ以前の未熟な段階の行動や思考などに逆戻りすることは、退行と呼ばれる。
- ②受け入れがたい感情や考えを、反対のものに置き換えて行動することは、反動形成と呼ばれる。
- ③自らの心のなかにある感情や気持ちを、他者がもっているものとして認知することは、昇華と呼ばれる。
- ④欲求が満たされないことを、もっともらしい理由をつけて正当化することは、合理化と呼ばれる。

葛藤についても何度も出題されており、「接近－接近葛藤」「回避－回避葛藤」「接近－回避葛藤」の具体例と、心理学の教科書にしばしばみられるような構成概念図を対応させる問題も出題されている。

以上のような設問は、小問として単独で出題されるのではなく、6～8問程度からなる大問の冒頭に問題冊子1ページ程度の長さで書かれる文章（リード文）の中の語句や文の一部について問われる形式になっており、このリード文についても青年期の心理や社会とのかかわりについて読ませるものが多い。たとえば、2008年度（本試験）ではリード文の中にジェームズ・ディーンが出演する映画『理由なき反抗』を紹介して、「⑥ 学校や大人社会への強烈な反抗や、その中で生じがちな葛藤などの青年心理が描写されている」と青年心理を引き合いに出し、さらに尾崎豊を紹介して、「もがき苦しむ青年の気持ちを謳った『十五の夜』、『卒業』などメッセージ性の高い歌を発表した。校内暴力が社会問題となった時代背景のなかで生み出された彼の歌は、③ 対抗文化の持つ意義について、今でも人々に考えさせるところがある」と「対抗文化」という概念を導いている。青年期の心理に関する概念や課題についての大問におけるリード文は、出題者のメッセージが伝わってくるようなものが毎年出題されている。

### パーソナリティ心理学

古典的な研究の知識だけでなく、心理学の論

文や実験結果も現代社会の論文には取り上げられている。まず紹介するのは、2002年度の本試験に出題されたパーソナリティ心理学にかかわる問題である。次のようなリード文からはじまる。

君たちの中にも、性格や適性を測る心理テストを自分の進路決定などの参考に使っている人がいるだろう。また、星占いや④ 血液型性格判断で自分の性格やだれかとの相性を調べて一喜一憂している人もいるかもしれない。（以下略）

さて、設問は④の下線部に関連するものであり、「ある心理学者が血液型性格判断について行った研究の方法と結果の概要」が掲載されている。この方法と結果をみる前に、選択肢をみてみよう。

- ①血液型性格判断が「当たっている」と感じる人が占める割合からいって、人の性格の6割程度は血液型から理解することができると考えられる。
- ②血液型性格判断の「本物」と「偽物」とを比較すると、「本物」の方が、血液型ごとの性格をよりよく言い当てていると考えられる。
- ③血液型性格判断には、もともと血液型に関係なく多くの人に当てはまるような記述が多いので、自分の性格が言い当てられたように感じやすい。
- ④血液型性格判断が「当たっている」と感じる人が多いのは、その性格記述が血液型による性格の違いをよく言い当てているからである。

以上、四つの選択肢をみて、心理学を学んだことのある人なら方法や結果をみなくても解答を導けるのではないだろうか。この設問では大村（1993）をもとに、次のように方法を紹介し、表1のような結果を掲載している。

**【方法】** ある雑誌に記載されていた「A型の性格は……」「O型の性格は……」といった血液型性格判断をもとにして、B型のところにA型の性格記述を、AB型のところにO型の性格記述を、というように、血液型と性格記述の対応をすべて入れ替えた「偽物」の性格判断を作成した。大学生1020人を二つの群に分け、一つの群には雑誌の性格判断そのもの、つまり「本物」を、もう一つの群には

「偽物」を、それぞれ本物が偽物かは教えずに読んでもらい、自分の血液型についての性格記述が「当たっている」と感じるかどうか答えてもらった。

方法に続いて表1が掲載されている。

	「当たっている」と答えた人数 (%)	「当たっていない」と答えた人数 (%)	合計 (%)
「本物」の性格判断を読んだ群	362(64.2)	202(35.8)	564(100.0)
「偽物」の性格判断を読んだ群	300(65.8)	156(34.2)	456(100.0)
全体	662(64.9)	358(35.1)	1,020(100.0)

この問題、本誌前号の山岡重行先生による「テレビ番組が増幅させる血液型差別」とあわせて考えてみると、さらに興味深い。高校生の多くは、血液型性格判断といわれたら素朴に「当たっているのではないか」と思うかもしれない。「だって実際に当たっているから……」という声が聞こえてきそうだが、そこに心理学の知見が立ちはだかるのである。

### 背景としての心理学の手法

次に紹介する問題は、内容面に加えて、心理学研究の方法である因子分析を取り上げることが注目される(2005年度本試験)。リード文には対人関係および対人認知に関する記述があり、青年期における「友人関係に関する欲求」の変化について、『教育心理学研究』に掲載された論文(榎本, 2000)における因子分析の内容を取り上げ、その概念について紹介している。すなわち、表2のように「中学生から高校生を対象に、『友達に望むことや接し方、友達への気持ち』についてアンケート調査し、統計的な方法を用いてこれらを表す諸項目をグループ分けした結果をまとめたもの」を紹介している。そして、「欲求Ⅰのグループとして分類された項目群と『同調欲求』という名称との関係を参考に、友人関係の欲求Ⅱ、欲求Ⅲの名称として最も適当なもの」を、それぞれ欲求Ⅱ、および欲求Ⅲの解答群の中から選ぶのである(解答群の内容は省略する。それぞれ何が入るか考えて

みよう)。

表2 友人関係に関する欲求の因子分析結果

欲求の種類	項目：「友達に望むことや接し方、友達への気持ち」
Ⅰ 同調欲求	友達と同じ行動をしたい 友達には私と同じ行動をしてほしい 友達と趣味や好み一致してほしい 友達には私の趣味や好みと一致してほしい 友達の行動や友達の言うことには従いたい
Ⅱ 13	友達と一緒にいたい 友達と遊びたい 友達には一緒にいてほしい 友達には私と遊んでほしい 友達とは離れたくない
Ⅲ 14	友達には私の意見をきちんと言いたい 友達には私に対して自分の意見をきちんと言ってほしい 友達とはお互いに言いたいことを言いたい 友達の個性を尊重したい 友達には私の個性を尊重してほしい

出典をみてみると当初は45項目あり、固有値の減衰や寄与率をもとに最終的には23項目に絞って因子分析を再実行し、そこで命名された因子名が本問で取り上げられている。ここでは表2のように15項目からなり、それぞれの因子に負荷量が高い項目を分類することで模式化している。実際には各5項目に共通する概念を選択肢から選ばよいため、言葉が理解できれば正解を導ける。

この問題は社会心理学の対人認知の問題へと続く。リード文には、他者の性格についての推論の過程は、私たち一人ひとりがもつ固有の人間観が無意識のうちに働くとして暗黙裡の人間観の考え方を紹介し、「自分はどのような観点で人を見る傾向があるか、あるいは、◎ どのような観点を重視する傾向があるか」について、意識して振り返ってみようと呼んでいる。そして、下線部◎に関して、図1を提示し「10人の顔写真を大学生Aさんに一枚ずつ見せ、『温厚性』『理知性』という二つの観点で各人物に対する印象と各人物に対する好意度の評定を7段階で求めさせる」という手続きが設問の中で説明されている。また、「好意度は人とのかわり方に大変重要な影響を及ぼすものである」という前提条件をつけている。評定方式は、「非常に○○だ」から「全く○○でない」までの7段階が尺度により示された図があり、○○

には「温厚」「理知的」「好き」の言葉が入るとある。

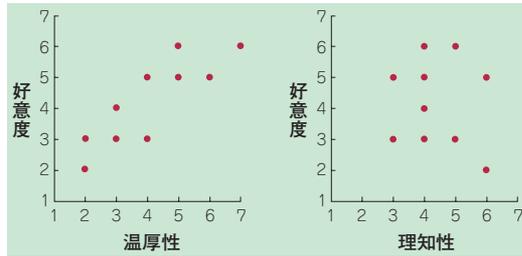


図1 「温厚性」「理知性」と「好意度」との関連  
(注) 図中の点は、Aさんが評定した10人の人物を、評定点を置いて座標上に位置づけたものである。

図1の左のグラフより温厚性と好意度、図1の右のグラフにより理知性と好意度との関係が読み取れるようになっており、選択肢にはAさんは「温厚性」の観点と「理知性」の観点それぞれについて、重視するか否かの組み合わせが示されている。図1から読み取れるのは、Aさんは温厚性と好意度とに正の相関がありそうだということであり、図1右のグラフからは理知性と好意度には負の相関がありそうだけれど、温厚性との関係ほど明快ではないな、ということである。以上が理解できれば正解が導ける。

さて、これだけ説明してまで因子分析のプロセスや相関関係の読み取りを問題に取り上げる必要があるのかと思わないでもないが、試験問題に取り上げられれば、次の受験生が過去問を通じて勉強するようになる。過去問の解説本には心理学の分析方法とまでは説明されていないが、それでも複数の質問項目によって欲求に関する概念が構成されているといった心理学の世界の一端がこうして示されたことは、興味深いことだといえよう。

### 政治経済の問題から

現代社会だけでなく、倫理や政治経済にも心理学を扱った問題がある。次の問題は2011年度の政治経済(本試験)で出題された「囚人のジレンマ」に基づいたものである。

国家間の協調的政策の実現を考えるために、次の

表であらわされる国家間ゲームを考える。このゲームでは、A国とB国の二つの国家が、互いに相談できない状況で、「協調的」もしくは「非協調的」のいずれか一方の政策を1回のみ同時に選択する。そして、各国は表中の該当するマスに示された点数を与える。ここで各国は自国の点数の最大化だけに関心をもつとする。

表3 国家間ゲームの利得表

		B国	
		協調的	非協調的
A国	協調的	A国に4点 B国に4点	A国に1点 B国に5点
	非協調的	A国に5点 B国に1点	A国に2点 B国に2点

囚人のジレンマにおいて、互いに相談もできずに1回のみ同時に選択するという条件がつけば、A国もB国も非協調と「教科書的」にはなるし、社会心理学のテキストにもそう書いてあるだろう。ただ、この問題のみを、何となく腑に落ちないものを感じた。それは、この問題が前提とする合理的な人間観が試験問題において当たり前にならされていることが原因なのではないかと思われた。意思決定の主体である人間は、いつもそんなに合理的に行動するのだろうか。もっと違う人間観にたてば、異なる問題設定や解答もありえるだろうし、心理学はこのことについて自覚的であるべきではないだろうか。心理学者の一人としてそんなことを考えた。皆さんはどう考えるだろう。

### 文献

教学社出版センター(編)(2010)『センター試験過去問研究 現代社会(2011年版センター赤本シリーズ)』教学社  
 大学入試センター(2011)「公民[現代社会 倫理政治・経済]」入学試験問題  
 榎本淳子(2000)「青年期の友人関係における欲求と感情・活動との関連」『教育心理学研究』48, 56-65.  
 大村政男(1993)「血液型気質相関説と血液型人間の心理学的研究Ⅱ」『日本大学文理学部人文科学研究紀要』46, 115-155.  
 山岡重行(2011)「テレビ番組が増幅させる血液型差別」『心理学ワールド』52, 5-8.